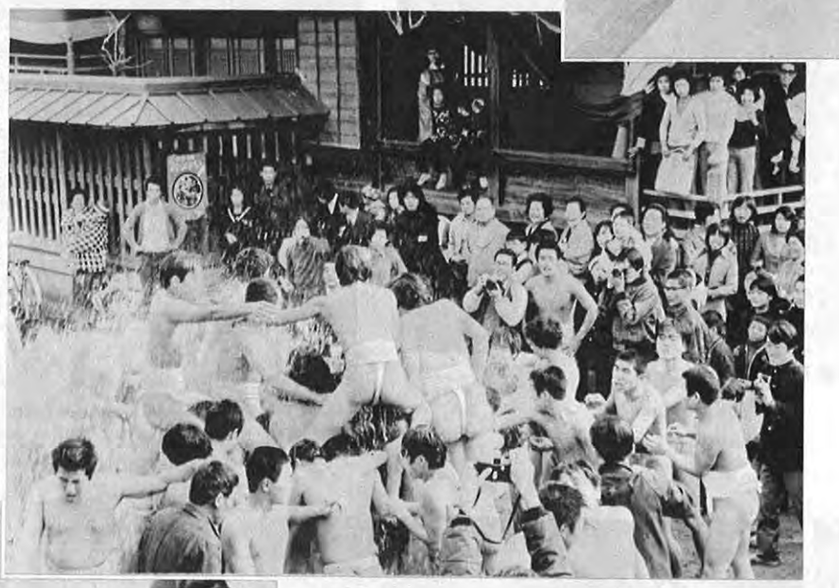
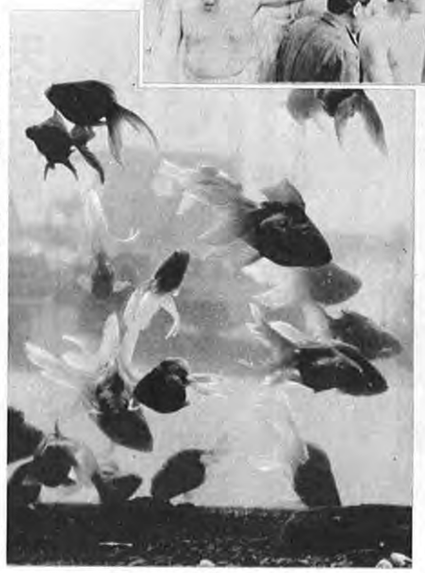
〝親はどんなもの、柴茶に迷うてのしこら
知らぬ他村に娘やろか〜〟

▶長洲町には上記のような「嫁入り唄」が残っております。

▶九州横断のかなめ「有明フェリー」



▶冬の勇壮な風物詩「的ばかい」



▶金魚の生産でも名高い長洲

▶観光土産品

わが町わが村　〈玉名郡長洲町〉　わが町わが村

═緑の工業都市目指して═

有明フェリーの始発便が朝もやのなかに汽笛を残して長洲港を発っていく頃、わが長洲町の一日の活動がはじまります。

古くから有明海上に浮かぶ細長い町として漁業の目標地又は前進地として栄えた町でありましたが、時代の流れとともに幾多の変転を重ねて今日に至っています。

昭和二十八年、町村合併促進法が施行されて現在の長洲町にいたる間、合併にともなう数々の迂余曲折があったが長洲町、清里村、腹赤村、六栄村は藩政時代からの流れをそのまま荒尾郷と称し過去数百年間地理的にも経済的にもまた歴史的にも生活環境を一にしてきた前記四町村が清里村の一部を除いて昭和三十二年十月一日新しい長洲町として合併発足しました。

近年、不二サッシ、日立造船他関連企業の進出により、古来白砂青松の海岸線を持つ「半農半漁の町」から一転して「農工併進の街」へとイメージチェンジして近い将来には「大工業都市」への期待と希望を抱かせる街へと変身中です。

日立造船有明工場ではすでに第一船を昨年末進水させ、その後も活発に船を建造しております。

人口も一万六千人を超え、益々増加の途にあり県北部の工業地域の核としてモデル的な都市づくりを推進しています。

新興都市として期待される本町がとり組んでいる問題に次のものがあります。

すなわち生活環境の整備、福祉施設の充実、教育（学校、社会）の拡充、町道の整備改良です。

特に緑を街に残そうを合言葉に公園、児童遊園地確保を心がけております。

文化のオアシスである中央公民館では「新旧住民の融和」「住民意識のレベルアップ」を二本の柱として日夜、社会教育の末端浸透に力を入れています。

「英会話講座」「時事問題教室」「やきもの教室」などを開設し、モダンな館をフル活用しています。

企業、各種団体、町役場が共催する恒例の「夏まつり」は約一万人の人出で、夜の更けるまで仲良く踊り明かし新旧が融け合った楽しい雰囲気があります。

「肥後の嫁入唄」「カイカイ人形」といった郷土芸能の保存にも積極的にとり組んでおり、ことあるごとに電波にのって各地に放送されています。

本町の冬を彩る風物詩に「的ばかい」（破魔弓祭）があります。毎年一月十五日、四王子宮境内でその日はたちになった若者を含めた青年たちがふんどしひとつで勇壮に的を奪い合い、最後は海中で激しくもみ合った後、的を小さく切り、魔除の守護として町内各戸に頒布するという行事です。

由来は現在のところに遷宮した時、御神体を安置した円座（敷藁）を氏子達が祭神の神徳加護によりあらゆる災難苦難から逃れて、できるだけ多くの御利益と幸福を得ようと円座を奪い合ったとともに、祭神が弓矢の道に秀でておられたので円座にかたどって的を作り、それを弓矢で射て悪魔退散、諸災厄排除、家運長久を祈願したものを奪い合ったのが破魔弓祭の起源とされています。

又、「金魚」の産地としても有名です。最近の錦鯉ブームでやや影がうすれたものの、一時は全国でも屈指の産地として、各地方に色とりどりの鱗を送り出したもので、今でもフェリー発着場広場では船待ちのひととき、観光客の目を楽しませています。

交通ルートにも恵まれていて、九州横断の要であるフェリーボートが三十分おきに航行し、国鉄長洲駅から急行を利用すると九時間位で東京へ行ける位置にあります。

産業的には第一次産業人口が製造部門へと大きく推移したものの、農業においては稲作のほか、みかん園、葉煙草が耕作されており用排水施設も一応整い、近代農業へ移行しつつあります。又、のり養殖も盛んで養魚（鯉、金魚）と共に本町の漁業を支えています。

全国的に広域化が叫ばれている今日、わが町界隈を見渡すとき、問題は山積いたしております。その一つ一つを解決していった時、真のモデル的な工業都市ができるでしょう。

いわゆる期待される街であると共に、課題いっぱいの街でもある訳です。

健康で住み良い「緑の工業都市」づくり、これが町民全部の希いなのです。

（長洲町）